

社会的活動報告

季節の壁面を作ろう

幼児教育学科 2回生 宮本 瑠奈

わたしたち、松川ゼミでは、毎月様々な素材を使って工夫した壁画を作成して、小児がんで入院する子どもたちがいる病院に届けました。この活動を選んだ理由は、入院している子どもたちを元気づけたいという想いと、わたしたちが苦手意識を持っていた壁面製作を経験して保育現場に役立てたいという想いです。また、壁面を見た子どもたちが季節感を味わいながら壁面を楽しんでもらいたいという想いから活動を続けてきました。壁面は、毎月のイベントや季節に合ったテーマを考え、イメージを膨らませていき、さらにそのテーマに沿ったびつりの素材を探し、画用紙、折り紙と組み合わせ製作を進めていきました。工夫した素材については、綿、ビーズ、テグス、毛糸、和紙、新聞紙、ビニール袋、マジックテープ、絵の具を用いました。立体的な壁面を作ることを意識して作っていきました。

例えば、六月の壁面では、ビーズとテグスを使い雨が降る梅雨の様子を表現し、七月は七夕の飾りを折り紙で作り貼り付けました。八月には全面をちぎり絵にしました。同じ折り紙という素材でも、折って使うか、ちぎって使うかで見え方も変わってくるという面白さに気づきました。十月は新聞紙を和紙でくるんだものをサツマイモに見立てて作りました。みんなで考えて実際にやってみることで新しいこと、面白いことに気づくことができ、いい経験になりました。

そして、壁面を作っていく中で、入院している子どもたちと手紙を通して交流したいと考えるようになりました。そこで、手紙を書いて送ろうと考えましたが、何か仕掛けがあるものを作りたいと思い、私たちはクリスマスツリーが開いて飛び出る仕掛けを作り、中にメッセージを付けて、小児がんの子どもたちに送り届けました。交流する中で入院している子どもたちが壁面を見た感想をいただき、また、私たちの作る壁面の反省点が見つかりました。

感想としては、「触れるのが楽しい」「かわいい」「季節感を感じる」「入院している子との会話のきっかけにな

る」などいただきました。季節感を感じて楽しんでもらうことが一番の願いだったので、実際に季節感を感じて楽しんでいただ

いていることがわかり、とても嬉しかったです。

壁面の反省点としては、取れないようにたくさん試行錯誤して完成したビーズの壁面のビーズが取れてしまい、子どもの誤嚥の可能性があったこと、病院の壁に貼る際に、飾りが取れかけていたりしていたことを教えていただきました。わたしたちは、移動のことや誤嚥の可能性について、考えや配慮が足りていなかったことを認識しました。

これからわたしたちが現場に立ち壁面製作を作ることがあると思います。その時には工夫した素材を使うことも意識しつつ、保育現場に存在する危険性や、万が一のことを考えて製作していけたらと思います。ですが、この壁面製作を通して、間違いなく私たちの学びになったことはあります。誰か、人のことを思いながら作る壁面と、作らなきゃという義務感から作る壁面では、見た目、完成時の達成感が違うことです。苦手意識を持っていた壁面製作の進め方や、道具の活用の仕方を学ぶことができ、貴重な時間となりました。

これらの経験をこれから働くうえで活かしていきたいと思っています。

